

「読むこと」(説明的文章) 学習指導案

第 1 学年国語科学習指導案

指導者 観音寺市立中部中学校 西山 亮平

1 単元名

「その情報は、本当に信じられる？」

池上 彰「ニュースの見方を考えよう」 (新しい国語 1 東京書籍)

2 単元について

(1) 本単元は、池上彰氏によって書き下ろされた説明的文章「ニュースの見方を考えよう」と教員の自作広告文を題材として構成する。

「ニュースの見方を考えよう」は、筆者の記者・ジャーナリストとしての経歴に裏付けされた豊富な経験をもとに、ニュースが制作者の意図やねらいを持って編集されたものであり、ニュースを自分なりに判断することの重要性を平易な言葉で解説した文章である。身近な具体例を数多く取り上げながら、客観的だと思われるニュースも、インタビューを行う場所によって結果が変わったり、見る人に興味をもたせるために「嘘ではないけれどちょっと誇張した」内容を交ぜたりなど、制作者の意図やねらいによって編集されていると述べている。情報過多である現代では、望まなくても情報が手に入る。正誤入り乱れて発信されていたり、一つ一つの情報が正しくても、原因と結果、主張と根拠などの関係性が不適切だったりする場合もある。また、嘘はつかないまでも、当然述べるべき事柄にわざと触れていない場合もある。そのような情報の一つ一つを吟味して適切に受け取ることは容易なことではない。また、SNSなど生徒が気軽に情報を発信できる時代でもある。よって本題材は、メディアリテラシーの入門期の生徒に、情報を主体的に吟味・評価する際の適切な心構えや姿勢を身につけさせるのに適した題材だと考える。

重点指導項目は、〔思考・判断・表現〕の「C 読むこと」における「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること」及び〔知識及び技能〕の(2)「ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること」である。本単元を通して、示されている情報を主体的に吟味・評価し、情報の受け手として大切なことや注意すべき点について考えさせたい。

(2) 本学級は、男子 17 名、女子 17 名の計 34 名で構成されている。どのような課題に対しても前向きに取り組む雰囲気があり、1 学期末に実施したアンケート調査では、全体の 70%の生徒が「国語が好き」と答えている。一方、「国語が嫌い」と回答した生徒は、「文章を読むのが苦手」、「将来何の役に立つのかが分からない」を挙げ、そのうちの多くが説明的文章を苦手としている。国語を学ぶ上で何を習得しこれからの生活にどのように生かせるのか具体的に想像できず、授業でも、自分の考えを表出することが苦手な板書を書き写すのにとどまる生徒も多い。

また、「商品を買うときに、広告文に騙されそうになったことがある」と答えた生徒が 60%、「ネットで買い物をした時に思っていたものと違う時がある」と答えた

生徒が70%と、多くの生徒が、情報のあふれたネットの世界で自ら情報を見極めることに困っていると答えている。

(3) 以上を踏まえ、次の点に留意して指導する。

授業で学んだことと生活が結びつかない生徒のために、活用教材として商品の広告文を取り上げる。広告文は、消費者の興味をより引き付けるために表現や編集が意図的に行われていること、生徒にとって身近なものであることから、より主体的に学習に取り組めると考える。国語が苦手な生徒も情報を読み取りやすくするために、できるだけ短い文章を扱う。特に広告文は、実際にありそうなものではあるが、原因と結果、意見と根拠の関係を吟味したり、隠されている事実などについて考えたりできるように自作する。さらに、生徒の意見を黒板に板書する際に確かな事実の部分とあいまいな部分が分かるように書くことで思考の流れが整理できるようにする。

どんな生徒も主体的に参加できるようにするために、三つの広告文を信用度が高い順に並べかえさせる。国語が苦手な生徒でも、操作的な活動をすることで授業に主体的に参加できると期待できる。さらに、並び替えることで、他者との意見の違いがより明確になり、「なぜ、その順番にしたか」「なぜ、その広告文の信用度が一番高いといえるのか」という疑問が起こり、対話が生まれやすくなり、他者の意見に耳を傾け、納得したり反論したりすることができる。と考える。

また、少人数での対話を取り入れたり、ノートに意見を書かせたりすることによって、人前で話すのが苦手な生徒も自分の考えを表明できるようにする。

3 単元の目標

- (1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕(2) ア
- (2) 新聞記事や広告文について、事実と意見を区別しながら読んだり、書き手があえて書いていないことを読み取りそれについて考えたりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) オ
- (3) 情報の扱い方について、自分の考えを意見文にまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1) ウ
- (4) 言葉にこだわって読むことで言葉がもつ価値を認識するとともに、学習課題について考えたことを積極的に話し合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2) ア)	①新聞記事や広告文を読み、事実と意見を分けて読んだり、原因と結果など情報と情報の関係について考えたりしている。(C(1) オ) ②情報の扱い方について、自分の考えを意見文にまとめようとしている。(B(1) ウ)	①積極的に新聞記事や広告文を読み、情報との接し方について、自分の考えを表そうとしている。

5 単元の学習指導計画（全5時間）

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等
1 ・ 2 (習得)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読して、内容を大まかにつかむ。 ニュースを見たり読んだりするときの注意点についてまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ニュースの見方を考えよう」を通読し、内容を知る。 筆者が挙げている編集の例についてまとめ、自分の考えをもつ。 コメントーターの発言の問題点を考える。 	<p>[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ①</p> <p><u>ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ニュースを見たり読んだりするときの注意点について叙述を基に捉え、要旨を把握しノートにまとめている。
3 (習得) (活用)	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事を読み、同じ事実でも書き手の意図が反映されると印象が異なることを理解する。 隠されている事実について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事を事実と意見に分けて読む。 事実と思われる内容の中に、筆者の考えや気持ちが隠されていないか考える。 【Ⅰ】【Ⅱ】の新聞記事を読んで、共通点と相違点についてまとめ、それぞれの筆者の意図について考える。 	<p>[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p><u>ノート・発言</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の表現や展開、構成に着目し筆者の意図について考えている。
4 本時 (活用)	<ul style="list-style-type: none"> 広告文に示されている情報を吟味し、自分の考えをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 三つの広告文の中に提示された情報の信用度を吟味する。 	<p>[思考・判断・表現] ①</p> <p><u>ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 既習した内容を踏まえ、原因と結果など情報と情報の関係について自分の考えを書いている。
5 (活用)	<ul style="list-style-type: none"> 情報を主体的に吟味・評価する際の適切な心構えや姿勢について自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、情報を得るうえで注意すべきことを意見文としてまとめる。 	<p>[思考・判断・表現] ② [主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p><u>ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 情報を吟味する際、大切なことについて自分の考えを確かなものにしていく。 粘り強く自分の考えを文章にまとめようとしている。

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 広告文に示されている情報を吟味し、自分の考えをもつことができる。

(2) 学習指導過程

学習内容・学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援・評価
1 ニュースを見たり読んだりするときの注意点について確認する。 2 学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実に見えても、使われている言葉や表現によって、筆者の意図を推し測ることができる。 ・ 筆者がわざわざ書かない情報もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの授業で学んだことを黒板に掲示しておくことで本時の一助とする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <h3>3つの広告文の中で一番信用度が高いものはどれか。</h3> </div>		
3 それぞれの広告文を信用度が高い順に並びかえる。 (1) 個人で考える。 (2) グループで考える。 (3) 全体で考える。	<p>【広告文A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトニングシリーズの売り上げであって、ホワイトニングジェルの売り上げとは言っていない。 ・ 昨年度の売り上げがものすごく低かったのかもしれない。 ・ 20g多いことがいいのかどうか。 <p>【広告文B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯のどんな悩みを抱えている人がどんな点で満足したのか、分かりにくい。 ・ 有効成分が何に有効なのか。 ・ 「あなただけ」という書き方なら真っ白にならなくても言える。 <p>【広告文C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯を白くすることと、健康との関係は？ ・ 製品を使ったことと歯が白いことの因果関係が不明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信用度について感覚でとらえている生徒には、広告文中で疑わしい箇所に線を引かせ、事実とそうでない部分や隠されている事実がないかを考えさせる。 ・ 情報の扱い方について、既習した内容とつなげながらノートに記入できているかを評価する。(Bと判断する状況)。 ・ Cと判断する状況の生徒に対しては、「一番信用できるのはどれか」もしくは「一番信用ができないのはどれか」と助言を行う。 ・ 確かな事実とあいまいな部分が分かるように板書する。 ・ 隠された事実を書く必要があるか考えさせる。
4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ商品でも、書き方がかわるだけで印象が変わる。 ・ 数字や表現に惑わされずに冷静に情報に接していきたい。 ・ 前年度の売り上げがどれくらいかは、製品のよさに関係ないので必要ないかもしれない。 ・ 何に有効であるのか、書いてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動のみの感想にならないよう、振り返りの観点を生徒に示す。 ・ 状況に応じて、それぞれの広告文の信用度をパーセンテージで表し、どのような情報があれば信用度が増すか考える。